



NEWS

1997.5.15 (平成9年5月15日)

発行：財団法人 骨髓移植推進財団

発行責任者：小池欣一(理事長)

編集責任者：清水 透(普及広報委員長)

〒160 東京都新宿区新宿1-4-8新宿小川ビル4F

TEL 03-3355-5041 FAX 03-3355-5090

郵便振替口座：00130-2-609313

特集 国際協力事業はじまる

道は未だ遠く、ようやくその緒についたばかりであります

私たちは、ひとりでも多くの患者さんに

「生きる希望と命の輝き」を贈るために

国を超え、民族を超えて地球的規模で善意の輪が広がるよう

命の尊さを訴え続けて行きたいと思えます

(’96 5周年記念全国大会アピールより)



祖国からの命の贈り物・骨髓を移植し
元気になった横田豪雄さんと妻のアンリーさん
ニューヨークの自宅で

海を渡る 命のキャリーバッグ!!



’96全国大会・パネルディスカッションに
臨むパトリス・コッポさん



レオナルド
ディカプリ

ダイアン
キートン

ロバート
デ・ニーロ

映画「マイ・ルーム」チャリティー試写会で
長嶋監督と対面のメリル・ストリープさん



東京慈恵会医科大学附属病院小児科を訪
問したメリル・ストリープさん。患者・
家族や病院スタッフと

MESSAGE

●日本のみなさんへ

NMDPは現在、オーストラリア、オーストリア、カナダ、イギリス、フランス、スペイン、スイス、シンガポール、台湾などと国際提携を行っています。まもなくこの中に日本も入ります。今後は、アジア系の患者さんにとって適合ドナーを見いだす確率のアップが期待できると考えます。日米両国の適合ドナーを見つけれない患者さんにとって、可能性が広がることは大変うれしいことです。



Ms. Patoricia A. Coppo
全米骨髓バンク運営部門長

特集

国際協力事業はじまる！

国際協力の開始と今後の取り組み

日米両骨髄バンク相互協力事業開始!! 400万人を超えるドナー登録者数
 世界約40の国と地域の骨髄バンクが手を結ぶ
 地球規模ネットワークへの第一歩を踏みだしました

骨髄バンク国際協力概要

日本骨髄バンクのドナー登録者数は現在約8万2千人(97年3月末)、骨髄移植を希望する患者さんが、HLA型適合のドナー候補者を見つけることができる確率は約73%(血清学的レベル)となっていますが、一方で適合ドナーを一人も見つけれない患者さんが、約650名もおられる現実があります。

患者さんの骨髄移植の機会を増やすためには、ドナー登録者の大幅な拡大を図る必要性とともに、海外の骨髄バンクと提携を結び、相互に適合ドナーを探す取り組みが求められておりました。

現在、世界には約40の国と地域に骨髄バンクが設立されており、ドナー登録者数は合計で400万人を超え、各国ともその規模・内容ともに次第に充実してきています。(表①) また、自国の骨髄バンクで適合ドナーが見つからない患者さんを救うため、他国の骨髄バンクでドナーを探す国際協力

システムが欧米を中心に確立されており、相互に骨髄提供が幅広く行われています。HLA型は、同じ民族同士で適合する確率が高いのですが、国際化が進み多くの国々が国を超えて交流している今日、骨髄

表① 世界の骨髄バンク・ドナー登録者保有数 上位10ヶ国 (総数・4,210,630人)

国名	登録者数(人)	国名	登録者数(人)
アメリカ	2,125,789	台湾	140,344
ドイツ	758,240	オーストラリア (ニュージーランド)	103,112
イギリス	281,820	フランス	86,594
イタリア	181,797	日本	81,918
カナダ	151,634	韓国	22,700

※この資料はBMDW Number of Donors Per Edition 33 (04-APR97) 及び、アジアについては、それぞれのバンクからの情報に基づきました。

バンクもまた、国を超えた国際協力を行うことが求められています。世界的にここ数年、他国の骨髄バンクから提供される例が急激に増加してきています。

日本骨髄バンクは、発足から5年を経過

し、国内の体制が一応整備されましたのでかねてから検討を進めてきた国際協力事業について、本年4月より全米骨髄バンク(National Marrow Donor Program - NMDP)と正式提携を結び、相互に検索業務を開始しました。(表②)

また、日本人とHLA型適合の可能性が高いと予測されているアジア諸国でも骨髄バンクが、次々と設立され活動を始めてきています。現在、台湾、韓国等のアジア諸国と提携を結ぶための協議を開始しており、今後はさらに、世界各国の骨髄バンクとのネットワーク化をめざして着実に国際協力事業の推進を図ることとしています。

これからは、日本骨髄バンクにドナー登録されている皆様をはじめ、世界各国に登録されているドナー登録者の方々の善意が、国や地域、そして政治や宗教等の違いを超えて、生命の贈り物である骨髄液が、より多くの患者さんに届けられることとなります。

皆様のご協力、ご支援を心からお願いたします。



'96全国大会パネルディスカッション。左から小寺良尚、パトリシア・コッポ、森 眞由美、高久史磨の各氏

日米両バンク提携の経緯

日米両骨髄バンクは、それぞれの国の医療制度、バンクシステム等を相互に尊重することを基本とし、対等の立場で両国の患者さんを救うために提携を結びました。

日本骨髄バンクは、発足当初より海外の患者さんについても、国内患者と同様の手続きを行うことを条件に、すべての国に門戸を開いてきました。※これまでに海外在住患者さんからの正式検索依頼（登録）は52名あり、そのうち骨髄提供に至ったケースは、アメリカへ2件、ブラジルへ1件ありました。

この間、欧米諸国で行われていた各国骨髄バンク間の相互検索や骨髄提供を行う、

メリル・ストリープ来日

白血病をテーマにした映画「マイ・ルーム」 骨髄バンクチャリティー試写会と舞台挨拶

白血病に浸された姉をめくり、家族の様々な愛と葛藤を描いた映画「マイ・ルーム」日本での全国劇場一般公開に先立ち、1月22日東京有楽町マリオン・丸の内ヒカデリーでチャリティー特別試写会が行われ、冒頭、来日したこの映画の主演メリル・ストリープさん（アカデミー賞女優）が舞台挨拶。同日、東京慈恵会医科大学附属病院小児科へ、骨髄移植を受けた子どもたちと家族を訪問した際



患者・家族を励ましの病院訪問
骨髄バンク主催の記者会見に

の様子を感動的に語り、移植を受け、元気になった竹内智美さん（23）から花束が贈られると、バンクのフリーダイヤルを告げて会場にドナー登録を呼びかける場面もありました。

試写会前、バンク主催の記者会見の席上「二人でも多くの患者さんに生きる道への可能性が広がる素晴らしいことです」と日米骨髄バンク提携の意義を強調しました。

写真① 東京慈恵会医科大学附属病院で移植を受けた患者（6歳・男子）に励ましのプレゼントを贈る
写真② 募金箱を前に試写会にかけつけた長嶋監督と
写真③ バンク主催の記者会見席上で
写真④ 左・舞台挨拶をするメリル・ストリープさん 右・竹内智美さん

国際協力事業についても検討を進め、93年10月には、アメリカ・ミネアポリス市で開催された全米骨髄バンク（NMDP）総会並びに同時に開催された世界骨髄バンク協議会（Bone Marrow Donors' Worldwide）BMDW）ミーティングに代表を送り、日本としては、海外の患者さんの登録を受け付けており、国内の運営体制が整備された時は、各国と提携を結び積極的に国際協力を行う旨を表明しました。

その後、日米両骨髄バンクは様々な機会に話し合いの場を持ち検討を進めてきましたが、提携についての最終的な日米両国政府機関の確認が得られませんでしたので、本年4月8日、

国際協力の業務開始を日米同日発表いたしました。

国際協力事業の内容

■ドナー検査や連絡方法
まず自国の骨髄バンクに患者登録（検索



依頼）し、適合ドナー候補者が見つからない場合に、相手国の骨髄バンクに検索依頼します。相互の連絡はコンピューター通信やファックス等を利用し、迅速な連絡を行うことになっていきます。

②HLA型検査、コーディネイト、骨髄採取（移植）の手続き

ドナー候補者の方々のHLA型確認検査やコーディネイト、骨髄採取は、すべてそれぞれ（自国）の骨髄バンク・病院で行いますので、従来と何ら手続き面での変更はありません。但し、両国で検査項目・方法に若干の違いがあるため、当分の間、両国で血液検査はダブルチェック検査を行います。従って、海外の患者さんと適合した場合は、コーディネイト段階でのドナー候補

表② 全米骨髄バンクの概要

ドナー登録者数	約268万人（97年1月現在） （アジア系14万人、米国内登録者201万人）
年間の患者正式検査数	約3,500件（予備検査数約6,000件）
移植累計数	5,527件（97年3月末までの累計） 96年は約1,250件
海外提携状況	15ヶ国と提携 96年10月末までに19ヶ国に 556件の骨髄提供 12ヶ国から682件の骨髄受入

補者の検体採血量が少し多目になる等、海外への提供の可能性について説明が行われます。なお、骨髄採取や移植を実施する病院は海外の病院との直接的な連絡が必要となることや骨髄採取（移植）に十分な経験を有している必要があり、交通便利等が考慮されるため、全国の30病院程度に限定される予定です。患者さんは、いままで通りそれぞれ自国の病院で移植を受けることに

読者とバンクのQ&A

Q NMDPはどうしてできたのですか

A 1978年、コロラドの大牧場主の娘ローラ・グレイヴィスは白血病と診断されました。父親のロバートは骨髄ドナーを求めて全米の血液センターや病院を訪ね歩きますが、適合者はいません。シアトルのフレッド・ハッチソン癌研究センターのスタッフ内に偶然、適合者を見出し、79年にローラは移植を受けることができました。喜びの父は私財を投じて米国初のバンク「ローラ・グレイヴィス骨髄移植財団」を設立。その後相次いで設立された地方バンクは、海軍と連邦政府の援助で統合され、1987年NMDPが誕生しました。

今日NMDPは、約268万人という世界最大のドナー登録数を誇り、その機能的なシステムとダイナミックな発展は世界の手本となっています。

Q 上位10ヶ国以外に骨髄バンクのある国は？

A オーストリア、ベルギー、インド、クロアチア、キプロス、チェコ、デンマーク、フィンランド、ギリシャ、ハンガリー、アイルランド、イスラエル、オランダ、ノルウェー、ポーランド、ロシア、スロベニア、南アフリカ、スペイン、スイス、ポルトガル、ウクライナ、ペラルーシ、ブラジル、中国、香港、シンガポールなどです。

が年間約2千万ドル補助されており、スムーズな運営が行われています。
現在、白人系の患者さんの適合する確率は約75%程度にまで高まっていますが、ア



に、検査費用のドネーション（募金）を行っています。
現在は、連邦政府（日本の厚生省にあたる委員会）と海軍の二つの機関から少数民族を中心とした検査費用、そして運営資金

アジア系や黒人、アメリカ先住民、ヒスパニック等の少数民族の方々との適合率が低い状況であったため、ここ数年、特に少数民族の方々をドナー募集の主要な対象として取り組みを行いました。その結果、ドナー登録数は55万人にまで増加し、今までは少なかった少数民族の患者さんの移植件数も、順調に増加してきています。こうした努力は今後も続けていきます。（表⑨）

今日、NMDPがドナー検索できる登録数は約250万人（米国在住ドナーは約190万人）であり、この他に提携を結んでいる9ヶ国の合計約80万人も検索できます。さらに、世界骨髄バンク協議会（BMDW、本部オランダ、日本は未加盟）には、加盟30ヶ国のドナーHLAタイプが種類ごとに登録されており、そのリストも照合しています。従って、合計350万人を超えるドナーを有していることになります。

NMDPは、患者さんが良い状態で移植を受けられるよう、検索開始から移植に至

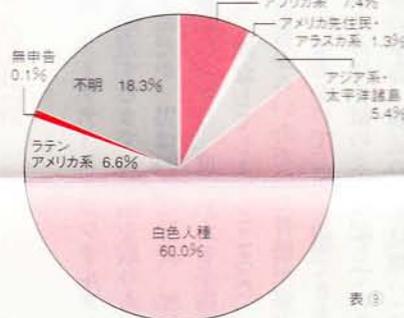
日米相互学習の場となった「骨髄バンク推進全国大会'96」



壇上で講演するコッポさん

昨年12月14日、東京・経団連会館で'96全国大会（5周年記念）が開催されました。本年4月のNMDPとの提携に先がけて、NMDP運営部門長ハトリシア・コッポさんをお招きして米国の現状報告やドナー募集、ドナー登録などの方法や状況の相違点を中心にディスカッションが行われました。NMDPのシステムの学習と日本のシステムを見つめなおす場となったシンポジウムでした。大会の最後に「生きる希望と命の輝き」を訴え、バンク事業の一層の推進を誓うアピールを採択し、閉会しました。

NMDPのドナー登録状況 1996年10月末現在
登録者数 2,498,180 (人)



るまでの時間を短縮することに最も力を注いできました。様々な連絡や手続きにかかる時間を短縮するため、各参加センターとの連絡および全体を有機的に結び付けているのが、STARコンピュータネットワークシステムです。こうした努力の結果、現在ではドナー検索から移植までに要する平均は、4.2ヶ月になっていきます。
NMDPでは、最初のドナー適合検索に

ついては、患者さんの主治医（各国バンク）から、電子メール・ファックス等で、適合者がいるか否かの照会に無料で応じており、原則として24時間以内に返答しています。適合ドナーがいなければ正式検索（登録）とはなりません。この予備検索方法は、世界各国が採用しており、迅速な検索とコーディネートをを行うためには必要不可欠なものです。

NMDPは、日米両国骨髄バンクの提携により、アメリカに住む日系人、アジア系の患者さんに大きな恩恵が得られることを心から喜んでおります。そしてまた、アメリカのドナーが日本の患者さんの生命を救うことができるチャンスが与えられることは素晴らしいことと思っています。

骨髄移植を待ち望んでいる多くの患者さんのために、両国の骨髄バンクがさらにより良いシステムとなるよう、互いに努力していきたいと願っています。



祖国から命の贈り物

「この世の中で自分の分身がいたのだという不思議な感じをもって、適合者存在の知らせを受けました。過去のドナー探しをふり返りその苦勞を考えると、まさに奇跡といえるニュースでした」



米国永住権を持つ。ニューヨーク市在住
89年慢性骨髄性白血病と診断され
93年に骨髄移植を受ける
日本骨髄バンクの仲介で
骨髄移植を受けた最初の海外在住者
横田 豪雄さん

96年の秋、日本骨髄バンクに届いた横田さんの手紙には、国境を越えて骨髄を提供してくれた日本のドナーに対する限りない感謝の思いが切々とつづられている。

絶望の淵で

横田さんが慢性骨髄性白血病の発症を知ったのは89年4月のこと。日本にはまだ公的骨髄バンクが発足していなかった。仕事に追われて、2、3年受けそびれていた健康診断を軽い気持ちで受けたニューヨークの病院で判明したのだった。全く自覚症状がなかった。学生時代はスポーツマンで、健康には自信があっただけに検査結果が信じられず、いくつも病院を回った。

「白血球数17万強。余命3、4年。ただし急性転化がいつ訪れるかわからない状態。半年後か、1年、3年後か、明日かもしれないが、その時は治療のしようがない」
祈るような期待に反して、どこの医師も口裏をあわせたように同じことを告げた。「骨髄移植の他に助かる道はない、しかも一刻も早く」

横田さんのドナー探しが始まった。日本にいる親兄弟はもとより、全ての血縁者に検査の依頼をした。皮肉なことに二人の姉

どうし、HLA型が一致していた。横田さんと一致しているのは一人もいなかった。それではと全米骨髄バンク(NMDP)に患者登録をした。次いで英国の骨髄バンク・アンソニーノーランにも照会、同じアジア系民族の国ならと香港のバンクにもドナー検索を依頼した。世界中の骨髄バンクの100万人を超すドナー登録者の中に、適合者を見いだせないまま3年が過ぎ、その間に勤めていた日系の会社も辞めるはめにもなった。投薬で病状はほぼ安定しているとはいえ、医師が宣告した4年目まで、あと幾ばくもないところまできていた。

ありがとうミミラル

「もはや、時間切れか…」

横田さんがあきらめかけた、ちょうどその時、最初の奇跡が起きた。「財団法人骨髄移植推進財団」設立、日本に骨髄バンクができたのだ。横田さんは最後の望みをかけた。海外在住者は枠外という難関を、財団の決断で乗り越えて与えられたラストチャンス。登録から一カ月

後、たった一度のドナー検索で適合者が見つかった。血液型、HLA型DNAタイピング、全て一致。

奇跡に継ぐ奇跡だった。見知らぬ日本のドナーの骨髄液は、海を渡って米シアトル市に転送されフレッド・ハッチンソン癌研究センターで横田さんに移植された。移植年齢制限45歳未満のことだった。

幸いの苗床

現在、マーケティングコンサルタントの会社を経営するまでに健康を取りもどした横田さんだが、実は94年に肺炎、95年には結腸腫瘍にかかり三度にわたる手術を受けている。観念してしまうところだったが、「あなた様からいただいた骨髄が強力に適合しているおかげで、無事克服できました」横田さんは手紙の文中に記している。

97年の早春、病気の父を見舞いに帰国。埼玉県の実家へ帰った足を延ばして財団を訪れ、日米両骨髄バンク相互協力の正式提携が成ったことを知った。

かつて、厳しい医師の診断を父に訳して聞かせなければならなかった自分なら

移植を受けるためシアトルに向かう空港で
「帰りは独りかもしれない」アンリーさん(左)は
秘かにそう思っていた



同封の、横田さんの妻・アンリーさんがドナーに宛てた手紙「To my Hero」が文頭「貴方がどこにおられようと、見知らぬあなたがくださった私たちの幸福が、いつもあなたをお守りすることでしょう」で結ばれている ※文面は意訳

て素敵な世界です
つけるのですから
取材・小玉徹子——

海を渡る



「手伝えることがきつとある」
横田さんは心から喜んだ。どう言っても言い尽くせないドナーへの感謝の気持ち。一目会ってお礼を言いたい。それがかなわないのなら、せめて何か他の人の役に立つ移植にまつわるボランティア活動をしたいと想い続けてきたのだ。

国境を越えた思い

「一人でも多くの患者さんを救いたい。医師なら誰でも思うことです。それは、どこの国でも変わらない。ただ、NMDPPのスタッフに友人がいたことは幸運でした」

名古屋第一赤十字病院は、国内唯一のNMDP認定病院。米国ドナーからの移植を手がけてきた、これまでの苦勞を尋ねると、小寺先生はこもなげにそう言った。

患者さんの思いに応えて

小寺良尚先生の内科部長室には、おびただしい数の医学書のすき間に、認定証が額に入れて掛けられている。
海外ドナーからの移植第1例となった患者さんは、骨髄移植の他に助かる道はなく血縁内にも国内でもドナーが見つからず、ワラをもすがる思いでNMDPへのドナー検索を依頼してきたのだ。ともかくその思いに応えることが最優先だった。ところが幸運にも適合者が見つかる、様々に問題が出てきた。渡米して移植を受けるには病院への寄託金だけでも3000万円。

「命を救われ、今度は将来の夢が得られました。幸いの苗床ですね、骨髄移植の世界は」
横田さんはしみじみ語った。
「苗床を広げよう」胸のうちに決意を秘めて...



移植2年後、自宅で。すっかり元気に

それは、どこの国でも変わらない。

国際協力の意味

「ギブアンドテイクが成立して、はじめて正しい関係と言えるのです」

日米両骨髄バンクの正式提携によって、名古屋第一赤十字以外の国内病院でもNMDPから骨髄提供が受けられることになる。また、日本から米国への提供もスムーズになり、両国内でドナーが見つからない患者さんのチャンスを確実に大きく広げることになる。

たまたま取材当日、ロシアから日本に渡り、NMDPからの骨髄提供で、移植を受けた青年、イリア・カタエフさんの退院帰国が決まって、お別れ会が開かれていた。母オリガさんは挨拶の中で「スバシーボ・ありがとう」を何度もくり返していた。

小寺 良尚

名古屋第一赤十字病院内科部長
骨髄移植センター長
財団企画管理委員会委員長



花束を受け取るイリア・カタエフさん。お別れ会で



遠く離れた見知らぬ者どうしが心を通わせる。不思議な、そしてあなたの骨髄が海の向こうで命の芽をふき、新しい物語の花を

特別取材「国際協力」って？
あなたの骨髄が

参加総数・2717人
全国166カ所
一斉実施!!

最北の開催地は今日も吹雪 <旭川>

北海道
ブロック

北見・釧路・帯広・旭川
札幌・苫小牧・函館



気温零下6度。それでも10分ほどの晴れ間はあったし、例年の今頃の最低気温零下25~30度と比べれば、まずまずの天気だとか。折しも雪祭り開催中で賑わう会場。

冰雪像を背に、通行の皆様にも少しでも気持ち伝わるように、チラシ配りは手袋なしでした。

旭川

<盛岡> アピールした女子高生の笑顔



東北
ブロック

青森県/青森
秋田県/秋田・本荘・湯沢
山形県/酒田・鶴岡・山形
岩手県/盛岡・花巻・水沢・一関
宮城県/古川・石巻・仙台
福島県/福島・会津若松・郡山・白河・いわき

盛岡



盛岡白百合学園女子高等学校から10人がボランティア参加。女子高生の笑顔が道ゆく人の気持ちをほぐしたのでしょうか。詳しく知りたいと質問する人が多く、その様子を岩手日報、テレビ岩手、めんこいテレビ、岩手放送などが、こぞって報道をくり広げました。

'97 2/9
移植1000例達成記念
全国一斉
キャンペーン実施

ありがとう1000人のドナーさん

日本骨髄バンクを通して行われた骨髄移植が1月24日、1000例に達し、これを記念して2月9日、全国一斉キャンペーンを行いました。参加協力していただいた全国のボランティアの皆様、ライオンズクラブや韓国婦人会の皆様、本当にありがとうございました。1000人の患者さんに命の贈り物をしてくださった1000人のドナーさんの温かい善意は、チラシを手にしてくださった方々にきっと伝わったことでしょう。

東京

甲信越
ブロック

新潟県/村上・新発田・新潟・豊栄・新津・燕・三条・高津・加茂
五泉・長岡・柏崎・小千谷・十日町・上越・糸魚川
長野県/長野・上田・松本・飯田 山梨県/甲府



関東
ブロック

新宿・本部会場 (東京)

心強い、受験生は“はくがく”?



茨城県/水戸・龍ヶ崎 栃木県/宇都宮
群馬県/前橋
埼玉県/春日部・川口・川越・越谷・熊谷・岩槻
千葉県/千葉・柏・習志野・茂原
東京都/新宿・銀座・渋谷・池袋・品川
立川・調布
神奈川県/横浜・川崎・平塚・相模原・厚木

都内8カ所で282名が18500枚のチラシを配布。本部会場では街頭ステージを使って開会を宣言、バンクへの理解とドナー登録を呼びかけ、道ゆく人も足を止め、関心を寄せてくれました。シーズンとあって大学受験生も多く、話しかけてみると思いのほかバンクの内容に詳しい。心強いかがりでした。

大賑わい、小千谷ちぢみの里 <小千谷>



猛吹雪の全国気球競技大会前夜祭会場にはカメラ片手のマニア、観光客が大勢。架設テント内では、無料サービスのあつあつの豚汁や甘酒をすすりながら、バンク談義でもりあがる。冷たい雪にさらされてかもしだ

される、味わい深い風合いの染めもの・小千谷ちぢみの里は大賑わい。ちなみに同県は37ヶ所で実施しました。



当日配られた
ボールペンとチラシ

日溜まりに「春」普通寺境内 <普通寺>



中国・四国
ブロック

日溜まりに入ると感じられる「春近し」。日曜日ともなれば、空海が開いた普通寺には観光客がバスを連ねて参拝に訪れる。ボランティア参加の四国学院大学生の

若者は初夏のよそおい <那覇>



1年中花が絶えない。2月は南米原産「イッペイ」が盛りで、ちなみに桜はもう葉桜です。日中は22度を超え、若い人は半袖姿。イベントの度に配るハート型の風船はすっかり人気定着し、通りすがりの中学生が3人、その場で協力を申し出てくれたり、感激の1日でした。

九州・沖縄
ブロック

福岡県/福岡 佐賀県/佐賀
長崎県/長崎 大分県/大分
宮崎県/宮崎 熊本県/熊本
鹿児島県/鹿児島・川内 沖縄県/那覇

那覇

手応え十分、腰をすえた取り組み



<宮崎>

気温20度、晴天。桜のつぼみもふくらみ、もう一月ほどでお花見。九州初のシンポジウム開催地の名にかけチラシ配りに熱が入る。3ヵ月毎に呼びかけ運動をする同じデパートのロビーで「命のボランティア」「21歳の別れ」などビデオを流して、腰をすえての取り組みの成果。12人が資料申込みハガキに記入してくれました。

九州・沖縄
ブロック

瀬戸内の春の予感 <尾道>

ここを舞台にした「放浪記」の作者・林芙美子像前。歩いて2分、海からの潮の香もさわやか。穏やかな瀬戸内気候とはいえ、桜はようやく硬いつぼみ。そんな静かな春の予感を楽しむかのよう、年配のカップルの観光客が何組か。人生の機微、命の重みを知り分ける年代だけに、真剣な面持ちで説明を聞いてくれました。

中国・四国
ブロック

鳥取県/米子・鳥取
島根県/松江・浜田
岡山県/岡山・倉敷
広島県/広島・尾道
三次・庄原
山口県/山口・徳山
宇部・下関
徳島県/徳島
香川県/普通寺
愛媛県/松山・今治
高知県/高知

珍しい上天気、活発な反応 <富山>



荒れる日本海からの寒風吹きすさぶはずが、この日は珍しく気温10度を超え、天気は上々。「それ、何け、くれるがけ?」チラシを手にとるおばあちゃんも。「置き薬、魚津の蟹気楼はもちろん、早速の次の活動作戦会議の着・新鮮な魚介類がこの地の自慢でしょう」とか。

東海・北陸
ブロック

富山県/富山 石川県/金沢 福井県/福井・敦賀
岐阜県/岐阜・大垣・高山・中津川 愛知県/名古屋・岡崎
静岡県/静岡・浜松・藤枝・沼津 三重県/四日市

小千谷

富山

京都

尾道

普通寺

<京都> 古都ならではのキャンペーン風景



近畿
ブロック

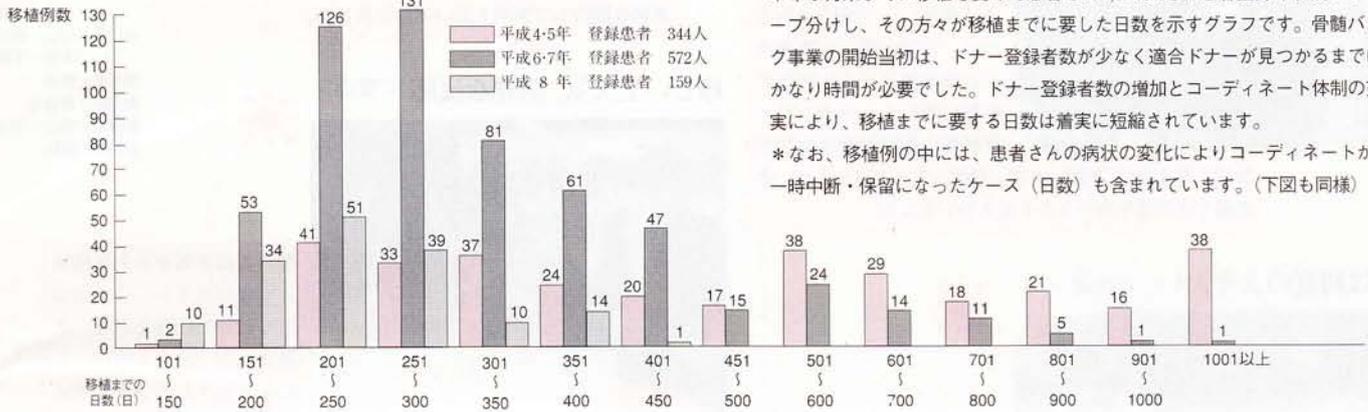
滋賀県/八日市・守山
京都府/京都
奈良県/奈良・天理
兵庫県/神戸・姫路
大阪府/大阪・堺
和歌山県/和歌山

底冷えから免れ前日からの晴天で、賑わう四条河原町。開業200、300年は珍しくない老舗が点在する町並みを着馴れていると見受けられる和服姿がちらほら。低い家並み越しに八坂の森や比叡山、はるかに愛宕山の山影が見渡せる。古都ならではのキャンペーン風景でした。



■ コーディネート状況第2報

1) 患者登録から骨髄移植までに要した日数 (平成5年1月～平成9年3月までの1075例)



本年3月末までに移植を受けた患者さん1,075人を、患者登録年次別にグループ分けし、その方々が移植までに要した日数を示すグラフです。骨髄バンク事業の開始当初は、ドナー登録者数が少なく適合ドナーが見つかるまでにかかり時間が必要でした。ドナー登録者数の増加とコーディネート体制の充実により、移植までに要する日数は着実に短縮されています。
*なお、移植例の中には、患者さんの病状の変化によりコーディネートが、一時中断・保留になったケース(日数)も含まれています。(下図も同様)

2) 適合検索・コーディネート・移植までに要した日数<中央値> (平成5年1月～平成9年3月までの1075例)



患者登録された年別に、移植までの各段階の中央値日数のグラフです。なお、中央値のため各段階と合計日数は対応しません。
① 登録から適合まで/ドナー登録数増加とともに短縮しています。
② 適合から3次検査まで/適合確率の高まりとともに、複数のドナー候補者を有する患者さんが増え、コーディネート件数の増加と条件の良いドナーを選ぶために時間が必要となっています。
③ 3次検査から最終同意まで/確実に短縮してきていますが、上記②と同様の理由で、時間が必要となっています。
④ 最終同意から移植まで/移植病院の空き状況と採取病院との調整が必要であり、最低でも1ヶ月半程度の時間が必要です。

■ コーディネート中止理由について (グラフ面積と実数は対応していません)

1) コーディネート開始から3次検査以前(1,169人) 2) 3次検査から最終同意まで(994人) 3) 最終同意以降(88人)



96年1月～12月までの1年間のドナーコーディネート依頼件数は2,820件で、一方、昨年1年間のコーディネート中止は2,251件でした。

1) 患者側理由で多いのは、コーディネート中のより条件の良い他のドナー候補者を選択しての中止であり、次いで治療が難しい患者さんも多い実態から残念ながら各段階で病状変化で中止となっています。
2) ドナー側理由で多いのは、健康上の問題です。次いで家族・本人の不同意、都合つかずとなっています。ご家族のご同意なくしては提供できませんので、お早めにご家族内での話し合いをお願いします。

TOPICS

新コーディネーター委嘱

コーディネーターが不足している地域を対象に、一般公募により受講者を募集した。第4回コーディネーター養成研修会は、96年8月の開講式にはじまり、各地における約6ヶ月間の実地研修を経て、本年2月8日(土)に国立国際医療センター(東京)で閉講式と修了試験を行いました。最終選考の結果、委嘱を受けた新コーディネーターは、4月から各地で実際のドナーコーディネートの現場で活躍しております。

なお、現在全国で155名のコーディネーターが委嘱されています。(コーディネーターの募集は現在行われていません。新規に研修を行う際は、改めてこのニュースにて、お知らせします。)

厚生省「骨髄移植調査研究事業」公開シンポジウム開催

本年2月15日(土)国立国際医療センターにおいて平成8年度の骨髄移植調査研究班の公開シンポジウムが開催され、最近の研究成果について報告されました。

1. 非血縁者間骨髄移植のHLA-DNAレベルでの適合に関する研究では「移植患者の急性GVHD発症と生存率は、DNAレベルでのA座B座およびDR座の一致、不一致が相関しており適合させる必要」が強調されました。「C座、D座との相関は認められず、D座は一部相関が否定できないため今後とも研究が必要」との報告でした。
2. ドナーの負担軽減についての研究では「造血幹細胞の増殖の基礎研究がかなり進んでいるが、臨床応用までには時間がかかる状況」が報告されました。

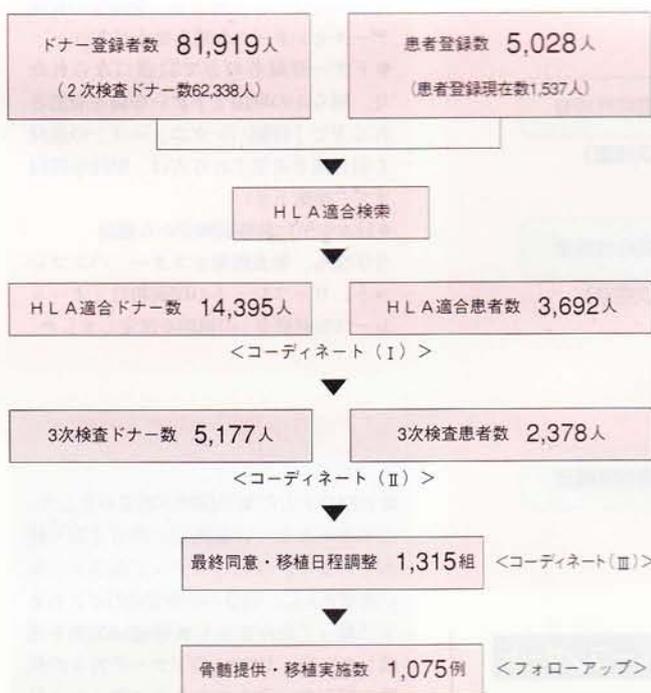
日本骨髄バンクの現状

日本骨髄バンク事業は開始から5年が経過し、本年1月24日には骨髄バンクを介した移植例が、1,000例に達しました。ご提供いただいたドナーの皆様には、患者さんに生きる希望、生命の贈り物をお与えくださり衷心から感謝申し上げます。

この成果は、ドナー登録者の皆様をはじめ、多くの関係者の皆様のご支援の賜物です。日本骨髄バンクは、これからも、ドナー登録者の大幅な拡大をめざすとともに、より適正で迅速なコーディネート活動を行い、多くの患者さんに生きるチャンスが生まれるよう努力を重ねてまいります。

■ 患者・ドナーのコーディネート状況

(平成9年3月末現在：累計)



注① ドナー登録数は、年齢超過や登録辞退者等を除いた登録者現在数 注② 患者登録数は、登録開始からの累計数。患者登録現在数は、移植完了者、登録取消者を除いた登録者現在数 注③ HLA適合者数は、HLA-A・B・DR座が一致した累計数 注④ 3次検査数は、コーディネート(I)が終了し採血検査した累計数 注⑤ 最終同意数は、ドナーとその家族からの提供同意書が確認され、採取・移植日程の調整に入った、ドナー・患者の組合せ累計数 注⑥ 骨髄提供・移植実施数以外の各段階の数字は、コーディネートが中止となった例数を含みます。

■ 都道府県別、ドナー登録、移植状況表

(平成9年3月末現在)

都道府県	人口	ドナー登録数	提供者数	患者登録数	移植患者数
北海道	5,666(千人)	5,811(人)	81(人)	224(人)	58(人)
青森県	1,469	609	5	24	3
秋田県	1,213	599	5	17	8
岩手県	1,414	654	8	36	5
宮城県	2,295	1,570	17	67	13
山形県	1,251	579	5	44	12
福島県	2,122	1,159	11	68	22
茨城県	2,922	1,076	20	117	34
栃木県	1,962	1,043	12	81	10
群馬県	1,981	1,005	5	93	32
埼玉県	6,659	1,917	54	251	43
千葉県	5,724	2,131	50	259	57
東京都	11,561	13,731	139	433	31
神奈川県	8,122	4,327	82	339	71
新潟県	2,477	1,604	30	79	11
山梨県	866	377	7	43	12
長野県	2,168	1,224	22	81	20
富山県	1,119	790	14	56	19
石川県	1,169	829	14	57	12
福井県	822	521	7	34	9
岐阜県	2,078	1,213	21	83	19
静岡県	3,699	2,342	10	143	32
愛知県	6,750	4,784	56	317	79
三重県	1,816	1,201	16	90	25
滋賀県	1,260	965	10	50	11
京都府	2,560	3,149	29	124	30
大阪府	8,538	6,373	72	388	87
兵庫県	5,435	2,782	33	279	59
奈良県	1,415	988	11	73	17
和歌山県	1,078	542	2	47	10
鳥取県	613	364	9	25	4
島根県	769	555	8	37	6
岡山県	1,930	1,417	16	86	14
広島県	2,856	2,256	45	92	23
山口県	1,546	838	9	79	15
徳島県	828	402	2	30	5
香川県	1,024	528	9	43	4
愛媛県	1,506	748	12	63	7
高知県	813	455	7	23	8
福岡県	4,868	3,485	45	188	25
佐賀県	878	533	2	46	9
長崎県	1,544	761	11	48	14
熊本県	1,847	825	12	64	14
大分県	1,229	718	13	36	3
宮崎県	1,171	508	9	39	7
鹿児島県	1,784	1,034	11	56	8
沖縄県	1,254	597	7	24	5
海外	—	—	—	52	3
合計	124,069	81,919	1,075	5,028	1,075

注① 人口は平成6年10月1日現在の推計人口(平成7年3月総務庁統計局刊)
 注② ドナー登録数はデータセンター登録者現在数(センター所在地)
 注③ 提供者数・患者登録数・移植患者数は居住地

TOPICS

台湾骨髄バンクとの提携

日本骨髄バンク(財団)は、アジア諸国の骨髄バンクとのネットワーク提携について検討を進めておりますが、本年2月16日から3日間、台湾に代表団を派遣し、台湾骨髄バンク(慈済会 Taiwan Marrow Donor Registry) 93年10月設立、財団法人仏教慈済慈善事業基金会の一事業部門本部・台湾花蓮市、ドナー登録者数は約11万人)の状況把握と今後の提携に向けて、業務協議を行いました。

台湾側とも提携について基本的な合意ができましたので、本年4月より、試験的な相互検索を開始し実績を積み上げながら、今年中に正式提携する予定です。

※「末梢血幹細胞移植・PBSC T」では健康ドナーへのサイトカイン(G-CSF)の投与量、幹細胞の収集方法や量、ドナーの短期的副作用の程度についての研究報告と長期的な観察の必要性も指摘がありました。なお、日本でも兄弟間の同種PBSC Tが開始され、今後は相当増加する見込みであること。また、欧米では同種骨髄移植と同種PBSC Tとの比較検討(250例ずつ)を開始したことが報告されました。

※「臍帯(さいたい)・臍の緒(じゆ)血移植と臍帯血バンク」では、臍帯血の採取方法や量、保存方法の研究報告とともに、すでに日本で兄弟間の臍帯血移植が小児で15例行われ、成績も良好であること。さらに、欧米でも始まっている臍帯血バンクの必要性や国内の各地域・病院等の取り組み状況が報告され、臍帯血の採取から保存・提供に至るまでのプロセス、品質や安全性の確保のガイドライン試案が報告されました。

かならずお読みください

HLA 1次・2次検査の同時実施について

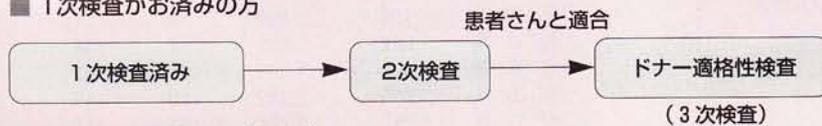
これまでHLA型の検査は、ドナー登録時の1次検査でA座、B座を調べ、2次検査でDR座を調べる2段階の検査方式でした。

本年4月より、ドナー登録時に1次・2次の検査を同時実施することになりました。今後、ドナー登録される皆様は、2次検査のため再度お出かけいただく必要はなくなり、ご負担が軽減されます。

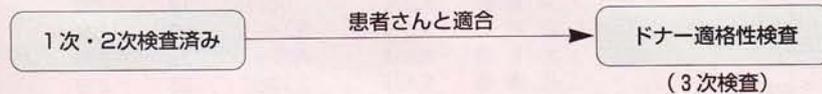
なお、すでにドナー登録されている方で、2次検査がまだお済みでない皆様には、各骨髓データセンターより順次2次検査のご案内が出されます。案内が届きましたら、お早目に2次検査を受けてくださいますようお願いいたします。

ドナー登録されている方

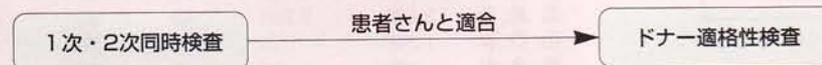
■ 1次検査がお済みの方



■ 1次・2次検査がお済みの方



これから登録される方



5周年記念キャンペーンコンサート



昨年12月6日に東京・新宿ルミネ内のアクトホールで、96年全国大会の併催事業として、ロックコンサートが行われました。ケイ・グラントの司会、MCで、PANTA、ジョー山中、六三四、VANILLA、古代まことの皆さんがライブにボランティア出演。骨髓バンクへの協力を訴え、元気になられた元患者さんも舞台上に立ち、会場の大きな共感を呼びました。

骨髓バンク・チャリティーコンサート

93年に引き続き、来たる6月9日(月)東京・オーチャードホールでホセ・カレラス氏のチャリティーコンサート「いのちのボランティア」を当財団とホセ・カレラス国際白血病財団の共催で行います。白血病を骨髓移植によって克服し、奇跡のカムバックを果たした彼の歌声は、多くの患者さんに生きる勇気を与えることでしょう。なお、収益金は両財団に等分に全額寄付されます。

●「バンクニュース」についてのご意見、ご感想など、読者からの投稿をお待ちしています。皆様と紙上キャッチボールができればと考えています。

サポーター募集

骨髓バンクの機能を本格的に発揮させるには、多くの資金が必要です。骨髓バンクのサポーターや賛助会員として、善意のドナーと骨髓バンクを支えてくださるよう呼びかけをしています。個人、企業グループで骨髓バンクを応援してください。お振込み先は下記の通りです。

サポーター1口	1,000円 (何口でも)
賛助会員 年	100,000円 (法人団体)
	10,000円 (個人)
郵便振替口座番号 00130-2-609313	

●本紙は、日本赤十字社のご協力により、すべてのドナー登録者の方に送付しております。送付を希望されない方や、住所、氏名の変更があった方は、登録先の骨髓データセンターへお知らせください。

●ドナー登録者の方で51歳になられたり、何らかの理由でドナー登録を取消される方で「骨髓バンクニュース」の送付を引き続き希望される方は、財団事務局までご連絡下さい。

●日本小型自動車振興会から補助今年度も、普及啓発ポスター、パンフレット、リーフレットの印刷物は「オートレース公益資金」の補助が決定しました。

編集後記

■NMDPとの業務提携が始まりました。これをおかきりに国際化に向けて取り組んでいます。今なおドナーが見つからない患者さんに、明日への希望の灯がともるよう願って止みません ■移植1000例を達成しました。1000人のドナーの方々の勇気と限りない愛をあらためて思った2月でした ■全国一斉キャンペーンではたくさんの方のボランティアの皆さんに参加協力いただき、ありがとうございます。こんなにも多くの方々に支えられ続けてきたことを実感しました ■忙しい中、快く取材に応じ、10号編集に協力して下さった方々、ありがとうございます。益々のご活躍をお祈りいたします ■日本赤十字社のご協力でドナー登録時にHLA型の1次、2次検査を同時実施できるようになりました。ドナー登録者数拡大へ向けて、大きな力になることでしょう ■「砂の一粒、水の一滴がやがて大地を形づくり、大洋になる」女優メリル・ストリープさんの記者会見席上の言葉を胸に、骨髓バンクの益々の発展に努めていきたいと思ひます。

お問い合わせ・資料請求は



0120-377-465

日本骨髓バンク(JMDP)